

特集 桜咲く——

陽光台の高台に、「さくらのおか公園」が完成した。地域住民が一丸となり、「地域出資」、「地域主導」という、新たな地域協働の形で進められた公園づくり。「次代に誇れるものを自分たちの手で——」地域住民の情熱は、かつて雑木林だった場所に、桜並木の公園を作り上げた。今月は、そんな地域づくりにかけた情熱をのぞいてみよう。

—特集7ページまで—



この公園は、地域でつくりあげた地域の宝。新たな名所になると信じています——



平良地区市有林管理委員会会長
おりもと・よしまさ
折本 善政さん

自分が小さいころ、このあたりの県道虫道廿日市線（現国道433号）沿いには桜並木がありました。年配の方は覚えている人もいます。その面影を取り戻し、地域の憩いの場をつくりたいと思っていました。

そして管理委員会として、その保有している資金を「何か地域に役立てたい」と申し出たことがきっかけとなり、市と平良地区コミュニティを含めた三者で話し合いが進められてきました。

団地造成時に残った残地森林のため、のり面が広く、整備予定地の下刈りや、雑木処理、クズの根の処理作業に多くの人手を必要としました。

それを多くの住民の皆さんをはじめ、平良小学校、PTA、造園緑化建設業協会などさまざまな人がボランティアで取り組んでいただいたことで立派な桜並木の公園ができました。2年がかりで行った作業は13日間、延べ683人もの人に参加していただきました。

管理委員会として、これだけの公園が地域主導でできたということを楽しんでいます。

この公園は、地域でつくりあげた地域の宝。多くの人に愛されるのを願うとともに、「平良」という地域が、廿日市市の桜の名所となることを信じています。



「さくらのおか公園」を命名した
さとう・ゆうすけ
佐藤 優祐くん

次代を担う地元平良小学校の児童から愛称を募集し、応募総数393件の中から選考。佐藤くんは、「理科の観察は好きなので、授業で来るのが楽しみです」と話してくれた。



遊歩道の奥にある公園のシダレザクラの記念植樹。左から平良地区市有林管理委員会会長 折本善政さん、平良地区コミュニティ会長 田中和雄さん、眞野勝弘市長。

一番大きな成果は、地域全体で取り組んだことではないでしょうか——



平良市民センター前所長
ちやむら・かつおき
茶村 勝興さん

ここまでのものができたということに正直感激しています。地域や学校の関係者、造園協会の方などさまざまな立場の人の意見を取り入れたさりげない工夫も随所に見られる公園ができました。

沿岸部から山間部までの広い地域を有する平良地区は、シビックコアとしての顔、市街地としての顔、団地としての顔、そして農地としての顔など、さまざまの特徴を持っており、一体感の醸成が一番の課題だと思っていました。

だから、この公園をつくるという話が出たとき、陽光台の近くだけの話にしたくなかったのです。最初か

ら平良地区全域に声を掛けさせていただいたところ、隣接する町内会だけでなく、平良地区全域から多くの方が草刈りや、雑木処理に手弁当で参加してくれました。そのことを本当に感慨深く思っています。

この作業に取り組んだ一番大きな成果は、公園の周りの地域だけでなく、平良という地域全体で真剣に関わって取り組んだことではないでしょうか。地域のパイプ役である市民センターの職員として、平良地区のつながりを実感できたことに幸せを感じています。

今後も地域全体でこの公園を守ってほしいと思います。

陽光台の高台に、「さくらのおか公園」が完成した。3月30日に行われた記念植樹祭には、住民約1000人が集まって完成を喜んだ。公園は市有の雑木林だった約6千㎡を整備。ソメイヨシノやシダレザクラなど7本のサクラが並ぶ延長350mの遊歩道も設けた。

この公園の整備は、「平良地区市有林管理委員会」が、西広島パイプ用地の買収金などで今まで蓄えてきた資金を「地域に役立てたい」と市や地域に打診したことからはじまった。地元平良地区の市有林の利用権を持つ住民で組織する委員会では、かつて速谷神社の参道として可愛川下流まで続いてきたさくら並木を復活し、憩いの場にしたいとの思いがあった。

平成23年9月には、市と管理委員会、平良地区コミュニティの3者で協定を締結。上平良地区内にある陽光台団地造成時に残った残地森林の市有地を活用し、遊歩道を整備するための費用を管理委員会が負担。「コミュニティ」が計画を立案・策定。市は公園の設計・整備を行うという官民協働のスタイルで取り組んだ。完成後は協議会が維持管理を担う。背後に極楽寺山、目の前には宮島を望む瀬戸内海の眺望が広がる「さくらのおか公園」。新たな桜のスポットとして、また市民の憩いの場として注目されている。